

評価委員会総合評価

研究課題名：海洋環境の予測技術の開発

評価委員

委員長：田中正之

委員：蒲生俊敬、中島映至、田中 佐、田中 博、渡邊朝生

評価年月日：平成 25 年 11 月 14 日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、従来の海洋モデルに海洋物質循環過程を組み込んだ海洋環境モデルの開発、国際標準実験に基づく3次元炭素分布の作成及び高解像度日本近海モデルを開発して、国際標準実験に基づく日本近海の海洋環境変動の予測可能性の調査を目的としている。

本研究により、モデルの開発・改良、モデルを利用した炭素循環などの海洋現象の解明、現業業務への貢献など様々な成果が得られた。また、観測値との比較については、大掛かりな国際的な取り組みが必要であり、本研究により国際連携が確かなものになったことも重要な成果として評価できる。

また、成果の公表も、原著論文の発表の他、海洋モデル解説書を英文で出版するなど、十分になされている。

以上のことから、本研究は、適切な目標設定のもと概ね適切な研究体制で実施され、当初想定した成果が得られた優れた研究であったと評価する。

将来的には、日本の沿岸を覆う2km格子の海洋モデルの開発運用が予定されており、沿岸域に大きな影響を与える空間スケールの小さい海洋現象の発生予測の高度化、学術的には水産資源の卵稚仔の輸送過程の解明や水産資源変動の把握等への貢献などが期待される。今後は、更なるモデルの高度化のため、窒素循環過程の取り込みについても行って欲しい。